

市長定例記者会見

日 時：9月22日(木) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、朝日新聞、読売新聞、ケーブルテレビ ICC

本日の案件は2つです。

1 番目は「まちなかウォークカブル社会実験 ～ストリートチャレンジ 2022～ を実施します」です。昨年、国土交通省から「官民連携まちなか再生推進事業」として採択を受け、まちなかウォークカブルの社会実験を駅前の銀座通りで行いました。今年は、さらに規模を拡大して、ストリートチャレンジ 2022 を実施します。昨年は、銀座通りを車両通行止めにしたましたが、今年は、ラウンドアバウトも通行止めにして本町通りまでのエリアにまで拡大します。昨年の初開催では、銀座通りや駅に展示したシヨンヘル織機が大変好評で、多くのマスコミに取り上げていただきました。今年も羊のふれあい体験やマルシェ、ファッションショーなどを行います。目玉としては、10月8日(土)に実施するキャンプストリートマーケットです。大野極楽寺公園でキャンプイベントを開催する campicnic という団体が行うもので、まちなかでのキャンプ用品の販売や、葵公園で実際にキャンプを行うという企画もあります。いろいろなかたちで、ぜひまちなかを楽しんでいただければと期待しています。コロナの感染状況は、千人を超えていた時期のことを思うと落ち着いてきたようですので、10月7日～9日の期間で行います。昨年にも増して盛り上がりを見せてくれると、我々もこのまちなかをこれからどのように変えていくか、いろいろな発想が膨らみますので、とても楽しみです。

2 番目は「『チャリで感じる承久の乱！』一宮市 100 周年+1 事業を開催」です。現在、NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」がクライマックスに向けて進んでいます。先日、NHK さんと共同での 11 月 3 日のスペシャルトークショー開催について発表しました。応募期間は 10 月 1 日までですが、ありがたいことに大反響をいただき、すでに 7 万人以上の応募がありました。市民会館のキャパシティーは約 1500 席なので、競争率が 100 倍程になるかもしれません。一過性のイベントで終わらせず、一宮市が承久の乱ゆかりの地であることを広く知っていただきたいと思えます。そこで、承久の乱ゆかりの地を実際に自転車で走りながら、各ポイントで撮った写真を SNS に投稿すると、抽選で商品が当たる企画を行います。木曾川ということ言えば、木曾川沿いの水辺の魅力を発信するミズベリング事業でもサイクリングロードを PR しています。ツインアーチ 138 をスタートし、河田渡船場跡から草井渡址と木曾川沿いを進み、対岸に渡って各務原市の承久の乱合戦供養塔までの片道約 10 キロのコースとなっています。秋の爽やかな時期に、ぜひ木曾川沿いの景色を楽しみながら、歴史に思いを馳せていただければと思えます。

最後に、コロナの関係です。昨日から、オミクロン株対応ワクチン接種の受け付けを始め

ましたが、今のところ順調に予約が取れる状況です。新規陽性者数が落ち着き、接種意欲が高まらない時期だったこともあります。裏返すと出足が鈍いかなという感じもあります。来週 26 日（月）から、各医療機関に新しくオミクロン株対応ワクチンが配送され、大規模会場では 27 日（火）の山下病院から、接種が可能になります。今朝の時点でも、10 月 1 日以降の大規模接種会場でのオミクロン株対応ワクチン接種の予約は空いている状況です。これから冬に向けてコロナの第 8 波とインフルエンザの同時流行に備え、引き続き警戒していただくように呼びかけをさせていただきます。

以上、本日の説明でございます。

質疑応答の概要

■「チャリで感じる承久の乱！」一宮市 100 周年+1 事業について

（記者）サイクリングコースの各ポイントは、承久の乱と関わりがありますか？

（市長）河田渡船場跡と草井渡址は、幕府軍が使用した記録があると聞いていますので、コースに入れました。

（記者）なぜ大河ドラマも終盤のこの時期にイベントを行うのですか？

（市長）今年度の当初予算に計上して、「承久の乱」に絞ってイベントを準備していました。大河ドラマで承久の乱の回が放映されるのが 11 月下旬から 12 月初旬になることを想定し、秋のこの時期になりました。

（記者）なぜトークショーを一宮市で開催することになったのですか？

（市長）NHK さんからの提案で、北条氏側の記録である「吾妻鑑」に、尾張国一宮で軍議を行ったとの記述があることから、是非イベントをやりたいという話をいただきました。

（記者）申し込み者数はどのくらいですか？

（市長）現在、全国各地から、約 72,000 人の申し込みがあります。

■まちなかウォークカブル社会実験～ストリートチャレンジ 2022～を実施しますについて

（記者）まちなかウォークカブル社会実験のゴールは、どのようにお考えですか？

（市長）銀座通りの地下に公共駐車場がありますが、老朽化が進んだため、数年内には対策が必要です。そのタイミングで地上の銀座通りも含め、ニーズがあれば大きく変えられないか、実験して考えているところです。

（記者）地下駐車場は、残すお考えですか？

（市長）駐車場の稼働率は悪くありませんので、残す方向で議論しています。中央図書館が入っている尾張一宮駅前ビル（i-ビル）が完成した当時、「イメージがよくなった」とお褒めの言葉をいただきました。市の“表玄関”のつくりはとても重要ですので、銀座通りの地下駐車場についても、必要に応じよりよくしたいと考えています。

（記者）駅前のデザインについては、市役所内で検証しているのですか？

(副市長) 民間の方や学識経験者も参加する「一宮駅周辺地区デザイン懇談会」で議論が進み始めたところです。

(記者) 昨年のまちなかウォークアブル社会実験での成果を教えてください。

(担当) 回遊性や居心地の良さの向上を実感する声が多数寄せられました。

(記者) まちづくりの活性化について、他の取り組みはありますか？

(市長) 容積率の緩和を、5年前に行いました。この地域が繊維産業で栄えていた頃から、30～40年が経過しました。いろいろと試す中で、起爆剤になるものが出てきてくれればと考えています。また、官と民が役割を分担して、我々が環境整備に取り組み、民間からは面白い動きが出てきてくれることを期待しています。

■市長の任期満了について

(記者) 市長の任期満了が近づいていますが、今後についてのお考えをお聞かせください。

(市長) コロナ対応について予断を許さない状況が続いていました。そうした中で、私の身の振り方について考えたり言及したりする時期ではないと思い、職務を行ってきました。引き続きコロナの状況を注視しながら、どういう形での発表がよいのかも含め考えていきます。